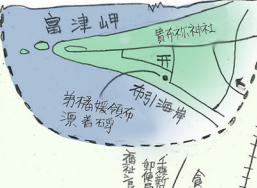


# 布流津

いなかみち 津



富津市には伝説があります。富津市の由来となっている日本武尊と弟橘媛の神話をはじめ、天狗やお地蔵様にまつわる民話の世界をたどります。  
参考文献：中嶋清一著「富津市の民話と民謡」



**岩瀬海岸**  
大貫市岩瀬海水浴場開設  
(7月中旬～8月中旬)  
馬出しまつり  
(9月敬老者の前日・の日曜日)



## 日本武尊と弟橘媛伝説

古事記・日本書紀で伝えられる日本武尊が東征により東国(筑紫)を大和朝廷の支配下にしたときのこと。走水(三浦半島)から船出して上総国(房総)へ向かった日本武尊は、大嵐により難船しそうになった。お伴していた妃の弟橘媛が武尊の身代わりには海神の心を鎮めようと入水し荒波を鎮め、無事日本武尊は上総国へ上陸した。その7日後に海神に身を捧げた弟橘媛の魂が岩瀬海岸に流れつき、どこからか一頭の馬が現れて櫓をくねえ、走水の海が一望できる吾妻山の頂上(吾妻神社)までかけ上がったといわれている。  
また、身につけていた衣が舞い降りて場所が富津市の市川海岸と伝えられ、布流津(富津市)の由来となっている。その衣は、海岸近くの黄布津神社に祀られている。海岸には弟橘媛の額布津遺蹟がある。



**神明神社** 天照大神・月読尊・素戔嗚尊を祀った神社。7月第4土・日の例大祭には、山車5基の巡行と神輿2基が渡御する盛大な祭りが行われる。

**磯崎時** その昔、磯崎崎には天狗が住んでいたという説も…?  
ハマヒルカガ開花 (5月中旬)

**筆子塚(真指寺)** 江戸前期、弟子が建てた18世有樂庵の墓石。  
(御供: 毎年4月中旬)

## ガンマリ神さま(白旗神社)

この神社の前では、お祭りの掛け声、笛や太鼓の音も静かに通り過ぎてとされている。その昔、嵐が吹し、沖の地点でお祭りに気勢を上げたところ、大山の崩れ多数の犠牲者を出したのだとか。それ以来、ここを通ずる祭には、声を立てずに静かに通りますと云う。

## 大きな天狗のお面(最上寺)



## 天狗のけんこ(吾妻八幡宮)

その昔村の若い者が此穴を、村一の力持ちになった者やいた。よその村から大蛇がやってきて吾妻と此穴を争いと言った。大石を弄手つくる此穴をしたところ、村の若者には石は割れず、大蛇が石をたたくと大蛇がけんこつあつたといふ。その検査をした大蛇のとては村人は「天狗の穴」と呼び、その大石は今でも残っている。  
昭和初年2月15日に大蛇の力「さあはら」といふお節の歌が歌われ、豆飯炊きが行われていた。7月の神樂祭には、ここから「お祭り」が出発する。



**田の地主(木造地蔵菩薩立像)**  
その昔八田宮に墓所はやり、村人は田の取り手が遅れて困っていた。お地蔵さまに祈ったら、お坊さんがやってきて田の取り手をしてくれた。地蔵さまにお参りに行ったら田の神と気がいっしょいっしょ。それ以来この地蔵さまは疫病の守りの「田の地主」と呼ばれている。(ご奉拝毎月24日)

**神倉色所(真指寺)** 空海が白如如に化身して、即身成仏の真容を現した滝の石の彫像。

